

# 避難体験継承 開設体験学習会



講師の荒町さんの避難体験を聞く中学生たち

**町** 内の中学2年生を対象にした、避難所開設体験学習会（教育委員会・「避難所開設体験学習会」実施委員会主催）が、8月5日虻田小学校で開かれました。次期噴火に備えて、噴火の体験を伝えていこうと一昨年から実施されてきたもので、虻田、洞爺各中学校から51人が参加し、避難所開設や運営の体験などを実践学習しました。

## 避難体験の大変さを実感

体験学習会では、最初に有

珠山火山マイスターの荒町美紀さんが「2000年の避難所体験」と題して、自身の避難体験をもとに、その生活の大変さを語りました。

当初自主避難のため、「情報が全く入らず、どういう事態になっているのかわからず不安であった」と話し、その後入所した520人ほど収容の避難所では、4月初旬ということもあり、まだ寒く体調をくずしたことやプライバシーが守られず、着替えなどに困ったことなど、思うように

いかなかった日々を語りました。

最後に同じ避難所の高校生が、自身の子どもとの相手をよくしてくれたことをひきあい

「中学生でもできることはたくさんあるので、役場の人に全て任せるのではなく、自主的に避難者のために何か実践していただいたい」と、思いやりの心とボラ

ンティア精神の大切さを訴えました。

## 避難所開設とHUG（ハグ）

講話の後、具体的な作業に取りかかり、まず7人〜8人をつつのグループとする避難者役班6班と役場職員班1班を編成。

その後役場職員班の指導の下、全員でマットなど物資の搬入のほか段ボールを使って間仕切りやベッド、簡易テブル作りなどの居住スペース作りを模擬体験しました。

段ボールを利用した間仕切りやテブル作りでは、マニュアルの無い作業にとまどう場面もありましたが、グループでコミュニケーションを取って完成させました。

午後からは、避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」を行いました。同ゲームは、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞ

れが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模

体験するゲームです。

生徒たちは、次々出される課題に対し頭を悩ませながらも、自らが避難所の運営者として判断を下していきま

た。役場職員班担当リーダーの石井 陽君（洞爺中）は「今までにない体験をさせてもらい地域の特色を強く感じた。大人数をまとめていくのは難しかったが、良い勉強になった」と話しました。



考えながら避難所運営ゲームを行う中学生たち